

会山行 櫛形山～春夏秋冬～ への誘い

櫛形山 2,052m。山名は甲府盆地から見ると和櫛の形をしていることに由来します。

南アルプスの前衛であり、農鳥岳と間ノ岳の南東側にどっしりと構えています。その穏やかで大きな山容は、山梨県内のみならず、季節と場所によっては都心から眺めることもできます。

東の眼下に見下ろす甲府盆地とは、間に糸魚川・静岡構造線、すなわち約 1500 万年前に形成されたフォッサマグナの西の境界線を挟み、地質や生態系を異にするユニークな場所です。

1995 年に作家田中澄江が随筆に著した「新・花の百名山」に選ばれ、アヤメ、テガタチドリ、センジュガンビの山として紹介されました。

そのアヤメは一時期激減しましたが、地元の有志が鹿害対策を施した結果、最近では復活しつつあり、ほかの色とりどりの花と一緒にきれいなお花畑を見せてくれるようになっています。

また、山梨県内で確認されている野生動植物種（植物約 810 種、鳥類 60 種類、哺乳類 44 主類）のほとんどが棲息しており、日本山岳遺産に認定されています。

日本二百名山、山梨百名山でもあります。

山頂に到る登山道は 4 本（丸山、北尾根、中尾根、南尾根の各登山道）とアプローチも多く、春のカタクリやカラマツの新芽、夏はアヤメや色とりどりのお花畑に原生林とコケ、秋は紅葉、冬はスノーシューハイクと、四季を通じた楽しみ方があります。

うっそうとした木々に囲まれた登山道ですが、ときおり展望が開け、富士山や南アルプスが間近にあることに改めて驚かされます。

また、周辺には温泉も多く、山行ごとに違う温泉を訪ねる楽しみもあります。

今回の会山行では、山腹の高尾穂見神社の夜神楽を訪ね、縄文王国と言われる同県の博物館で縄文式土器をじっくりと眺めるなど、地域文化に触れる要素も盛り込みます。

下記のとおり、登山と周辺の魅力を会員の皆さんに味わっていただきたくご案内します。



記

1. 山行計画について

<春篇>

春の花、カラマツの新芽、色づき始めるサルオガセなど、夏に向けて緑を増す櫛形山を楽しみます。移動途中に中央道釈迦堂 PA にある釈迦堂遺跡博物館で縄文土器を見学します。

<夏篇>

山頂に近い池の茶屋登山口から入り、避難小屋またはテント泊。山頂付近の原生林のナイトハイクと夏のお花畑を楽しみます。

<秋篇>

伊奈が湖や登山道のカラマツの紅葉を楽しみます。1 日目は南アルプス市の温泉付き公共施設にて前泊し、櫛形山中腹の高尾穂見神社の夜神楽や南アルプス市ふるさと文化伝承館で縄文土器を見学。2 日目に登山します。

<冬篇>

県民の森駐車場から、スノーシューまたは雪山登山（内容未定）

<番外初夏篇>

県民の森キャンプ場に前泊。BBQ で親交を深め、翌日登山。アヤマを始めとした、櫛形山ならではの色とりどりのお花畑を見に行きます。

*昨年 11 月「秋篇」、本年 5 月に「春篇」を一部実施していますが、櫛形山は、年を重ねながら継続的に実施する予定です。より深い山々の魅力を感じさせてくれる山域を、じっくり楽しみましょう。

2. 参加について

①募集

各山行の前に都度募集いたしますので、幹事までお申し込みください。

②自家用車利用の注意点

東京方面への帰宅時は、中央道上りの渋滞が見込まれます。登山後ですので、運転者は交代要員を確保、もしくは適宜休憩するなど安全確保に努めてください。

③林道について

晩秋から春まで、櫛形山内のほとんどの林道が閉鎖されますので、それを鑑みつつ計画します。

山梨県 県営林道通行規制情報<県営林道 櫛形山線>

<https://www.pref.yamanashi.jp/rindoujyouhou/kisei.php?id=7>

以上